

帝王切開分娩を受ける人への情報提供と看護を考える

Informations and care for patients undergoing cesarean section delivery matubara miwa.

産科分娩部：○松原 美和・上條 陽子

1. はじめに

当科では、年々帝王切開にて分娩となるケースが増加している。大学病院の特殊性もあり、他院からの紹介例や合併症妊娠のため、帝王切開による分娩が選択されているケースも多い。

千葉¹⁾は、近年出産・育児に関する雑誌等には出産様式についての多くの情報が掲載されているようであるが、いずれも経膈分娩に関するものが多く、帝王切開分娩についてのものは少ない。そのため女性や家族は、あらかじめ帝王切開分娩についての正しい知識を得難く、その弊害も報告されていると述べている。

帝王切開が増加している一方で、産婦は自然分娩への希望が強く、出産前はそのニーズにこたえられるように情報提供を行っている。妊娠中経膈分娩と考え準備していた人にとって、帝王切開となることは、事前の情報・知識不足からくる不安が生じているのではないだろうか。また、予定帝王切開となった人も情報不足があったのではないだろうか。

そこで、帝王切開となった人は、妊娠中に帝王切開の情報提供をどのようなところから得ているのか、分娩前の助産婦の看護はどうであったのか調査したので報告する。

2. 目的

帝王切開となった人は、妊娠中に帝王切開の情報提供をどのようなところから得ているのかを明らかにすることにより、妊婦への情報提供を適切に行う。

3. 調査対象及び方法

対象者：平成5年1月～平成8年4月までに当科で帝王切開となった162名

うち分娩後児が死亡にいたったケースを除く153名

調査方法：平成5年1月～平成7年4月迄の対象者 郵送によるアンケート調査

平成7年5月～平成8年4月迄の対象者 退院許可後に手渡しによるアンケート調査

4. 結果

回収数121名、回収率79.1%であった。対象者の年齢は18～45才。(平均30.6才)

初産79名(65.3%)、経産42名(34.7%)うち前回帝王切開22名(18.2%)。

(1) 当科での分娩数、帝王切開数の推移(表1)

当科での分娩数は調査期間中の平成5年1月から平成8年4月までに1388件であった。うち、帝王切開は162件で、帝王切開率は11.7%であった。平成5年は10.0%であった帝王切開率も、平成6年10.9%、平成7年13.7%、平成8年4月までで13.2%と年々増加傾向にある。帝王切開を予定と緊急で分類してみると緊急帝王切開率が66.0%であり、半数以上が緊急にて行われているものである。

そこで、帝王切開になった適応についてまとめた。(表2) 予定帝王切開であった55人のうち、半数以上の40人が母体適応であり、中でも合併症、既往帝王切開によるものが多かった。緊急帝王切開の107人では、半数以上の66人が胎児適応となっており、そのほとんどが胎児仮死によるものであった。

(表1) 当院における帝王切開の状況

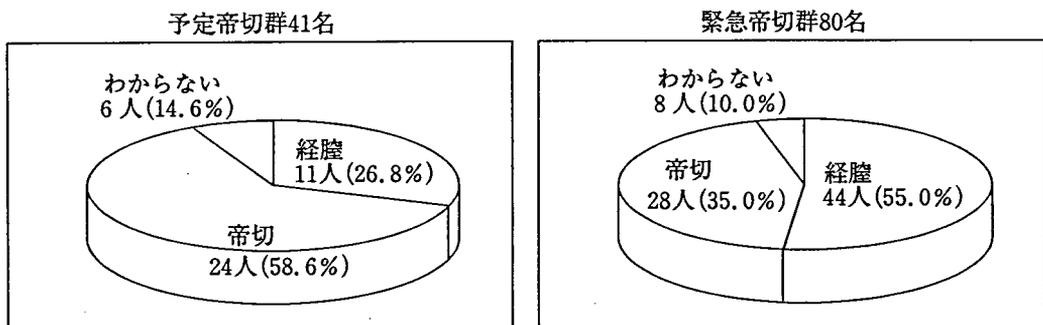
	分娩数	帝切数	帝切率(%)	予定帝切	緊急帝切	緊急帝切率(%)
H. 5年	429	43	10.0	15	28	65.1
H. 6年	430	47	10.9	14	33	70.2
H. 7年	393	54	13.7	20	34	63.0
H.8年(～4月)	136	18	13.2	6	12	66.7
計	1388	162	11.7	55	107	66.0

(表2) 帝王切開の適応

予定帝切 55人	緊急帝切 107人
<胎児適応>	<胎児適応>
双胎, 品胎 7	胎児仮死 40
重症合併症 6	骨盤位 11
IUGR 2	双胎 9
骨盤位 1	早産, IUGR 5
	重症合併症 1
<母体適応>	<母体適応>
既往帝切 16	妊娠中毒症 10
合併症 15	既往帝切(切迫子宮破裂) 7
前置胎盤 4	前置胎盤 6
子宮奇形 2	常位胎盤早期剝離 1
妊娠中毒症 1	肺水腫 1
高齢初産 1	
	<分娩障害による適応> 16

(2) 分娩様式について

妊娠中分娩様式をどのように考えていたかという質問を予定帝王切開群と帝王切開群に分けてまとめた。(図1)



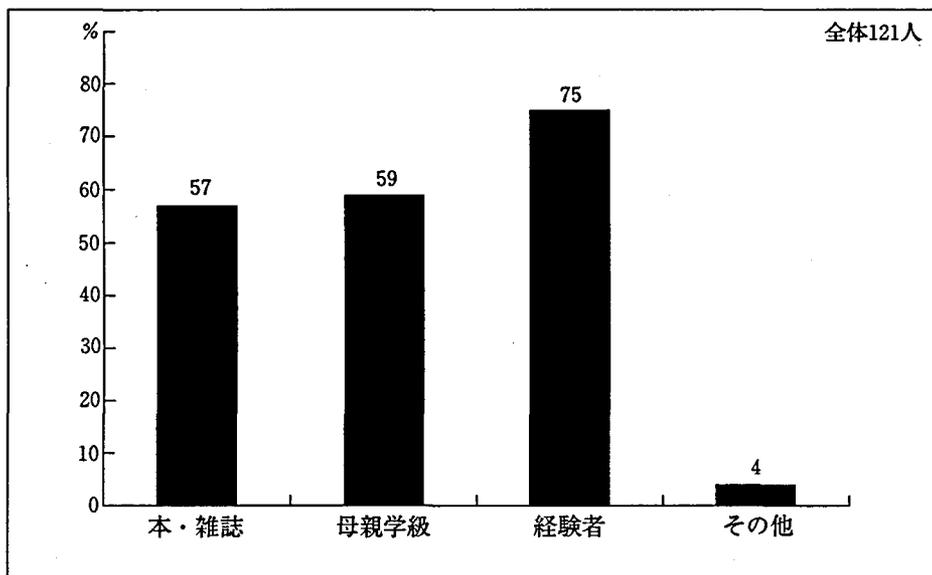
(図1) 妊娠中、自分の分娩様式をどのように考えていたか?

予定帝王切開の41人中24人が帝王切開と回答している。予定帝王切開のケースは帝王切開の適応にもまとめたように、母体の合併症、既往帝王切開が多いため、妊娠中から帝王切開と思い妊娠中を過ごしているからであろう。

緊急帝王切開では80人中44人が経膈分娩と考えていたと答えており、半数以上の方が自分の思っていた分娩形式と異なった結果となっている。

(3) お産の知識・情報の入手方法について

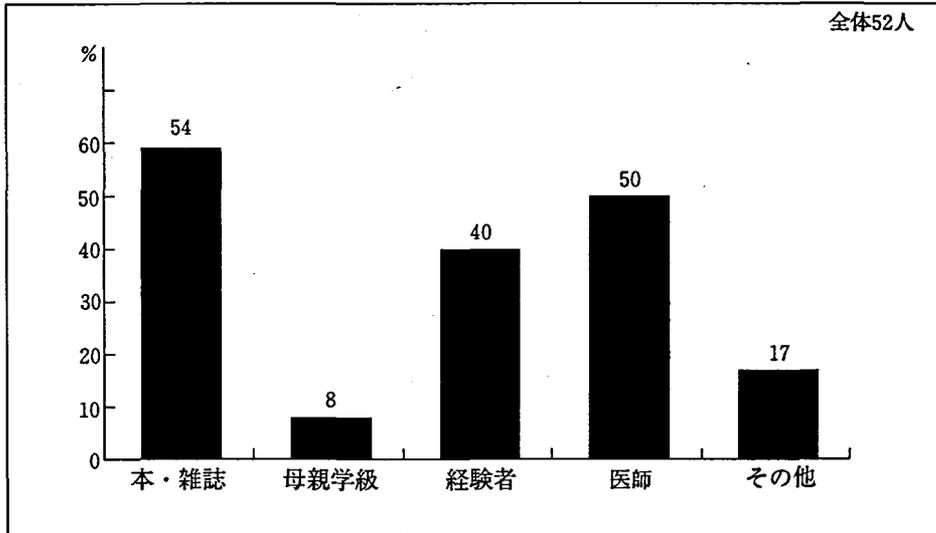
お産の知識・情報はどのように得たかという質問に121人から複数回答を得た。(図2) 経験者という回答がもっとも多かったが、本・雑誌、母親学級も半数以上ずつを占めている。



(図2) 妊娠中、お産の知識・情報はどのように得たか?

妊娠中分娩様式を帝王切開と回答した52人のみに、帝王切開の知識をどこから得たのかという質問をした。(図3) 帝王切開と考えていた人は意識して帝王切開の知識を得ていると考えたからである。複数回答で得られた結果は、本・雑誌、経験者、医師を40%以上の方が情報の入手先として回答している。母親学級に関しては、52人のうち8%の人の回答のみである。お産の知識の質問では半数以上の方が母親学級を情報の入手先と回答しているのと比較すると、帝王切開に関してはほとんど母親学級では情報が得られていないと考えることができる。

同様の質問を予定帝王切開群と緊急帝王切開群に分けてまとめてみた。予定帝王切開では、医師から情報を得ている人が63%であったが、緊急帝王切開では39%であった。予定帝王切開の人は、妊娠中に外来などで医師より帝王切開の可能性や方針について説明を受けることが多いため、その差が回答にもあらわれた結果であると伺える。



(図3) 妊娠中、分娩様式を帝王切開と考えていた人は帝王切開の知識・情報はどのように得たか？

(4) 帝王切開決定時の医師・助産婦の対応

実際の帝王切開が決定した場面で医師・助産婦の対応がどうであったのか、気付いた事、気になった事をあげてもらった。(表3)(表4)

医師の対応では、予定帝王切開の人からは「説明が十分で不安はなかった」「充分な対応」という意見のみで要望はなし。緊急帝王切開の人からは、「わかりやすい説明で理解できた」「説明をきちんとしてくれて安心できた」という意見の一方で、「説明がわからなかった」「説明がもっと欲しい」「具体的にきいて納得したかった」「妊娠中に説明が欲しい」という意見が出されている。

助産婦に対しては、予定帝王切開の人からは「前もって話をしてくれたので不安はなかった」という意見があり、事前に関わって話をしたり、準備していくことが不安の軽減につながっている。緊急帝王切開の人からは、「親切に接してもらい不安が和らいだ」「不安を察して気遣ってもらった」「側にいてくれて安心」という意見の一方で、「側にいて欲しい」「言葉を掛けて欲しい」という要望があった。

(表3) 帝王切開と決まった時医師の対応で気付いたこと、気になったこと

<予定帝王切開>	<緊急帝王切開>
<ul style="list-style-type: none"> ・説明が十分だったので不安はなかった ・充分な対応をしてくれた 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい説明でよく理解できた ・説明をきちんとしてくれて安心できた ・話し合いの場を持ってくれてよかった ・冷静な対応、迅速で適切な対応であった ・声を掛けてくれて安心した
	<ul style="list-style-type: none"> ・説明がわからなかった。もっと欲しい ・具体的に説明をきいて納得したかった ・妊娠中に説明が欲しい ・決断を早くして欲しい ・声掛けが欲しい

(表4) 帝王切と決まった時助産婦の対応で気付いたこと、気になったこと

<予定帝王切>	<緊急帝王切>
<ul style="list-style-type: none"> ・優しくしてくれた ・親切にもらった ・前もって話をしてくれたので不安はなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・親切に接してもらい不安が和らいだ ・不安を察して気遣ってもらった ・側にいてくれて安心 ・気持ちをきいてくれて安心 ・声を掛けて励ましてもらい安心 ・十分に対応してもらった
	<ul style="list-style-type: none"> ・側についていて欲しい ・言葉を掛けて欲しい ・説明が欲しい ・早く対応して欲しい

4. 考 察

今回は妊娠中の帝王切開に関する情報提供はどうであるのか、情報不足を補う援助はできているかということに重点を置き調査を行った。お産の情報源はさまざまであるが、最近の傾向としてマタニティ雑誌でも帝王切開の情報を得られていることがアンケートよりわかった。また、経験者から情報を得ているという意見も多く、お産をする人の身近に帝王切開の経験者がいることで、情報がそれぞれに伝えられているようだ。医療者からの情報提供は、帝王切開の可能性のある人のみ医師より妊娠中に説明がいくだけで、助産婦から情報を得たと答えた人はあまりいなかった。助産婦が行っている母親学級からの情報提供はほとんどないという結果からも、内容の再考が必要ではないかと思った。実際に母親学級で伝えられることは、経膈分娩の経過が中心であり、帝王切開の内容を加えるかは担当の助産婦に任されている。帝王切開率の増加も考慮し、情報提供ができるように今後検討していく必要がある。また、個別性を考えると、外来受診時に医師のみの説明だけでなく、助産婦から伝える情報もあると思われる。正しい情報が身近に提供できる存在となれるように、今後努力していきたい。

帝王切開時の対応については、緊急帝王切開の場合、「側についていて欲しい」「言葉を掛けて欲しい」という要望があった。準備のために産婦の側を離れなくてはいけないことがある。側にいること、声を掛けてもらうことが安心感につながっているという意見からも、心掛けて援助していきたい。助産婦にとっても、一緒に経膈分娩に臨んでいたのに、それができない喪失感を産婦と共に感じることもある。産婦の気持ちを十分に汲んで、帝王切開に臨むという気持ちの切り替えを図っていきたい。どんな分娩様式でも共に分娩に臨むという姿勢は変わらずにいたいと思う。

今回の研究から「母親学級での情報提供が殆どないという結果から母親学級の内容の再考が必要である」「外来受診に医師のみでなく助産婦からの情報提供を考えていきたい」という援助の方向性が明らかになった。

5. 終わりに

今回の調査で実際帝王切開を受けた方から貴重な意見をいただいた。情報不足からくる不安を想

像していたより多くの人々がもっている印象を受けた。また、経膈分娩へのコンプレックスや次回の妊娠への不安を持っていることも同時に知ることができ、産後のフォローアップや次回の妊娠時の援助に継続していく必要性も感じた。

最後になりましたが、本研究を行うにあたりご協力いただいた方々に深く感謝致します。

引用文献

- 1) 千葉ヒロ子：帝王切開分娩における精神的支援，ペリネイタルケア春季増刊，
Vol.13:126-131, 1994.
- 2) 近藤潤子他：帝王切開分娩における母子相互作用に関する研究（第1報），周産期医学，
16(4):123-133, 1986.
- 3) 堀内成子他：帝王切開分娩における母子相互作用に関する研究（第2報），周産期医学，
19(2):141-147, 1987.
- 4) 佐藤洋子：帝王切開の看護と指導，周産期医学，26(7):1007-1011, 1996.
- 5) 岡田裕子他：帝王切開に至る過程と喪失体験の関連<第27回日本看護協会集録母性看護>，
日本看護協会出版会，1996, P115-118.